

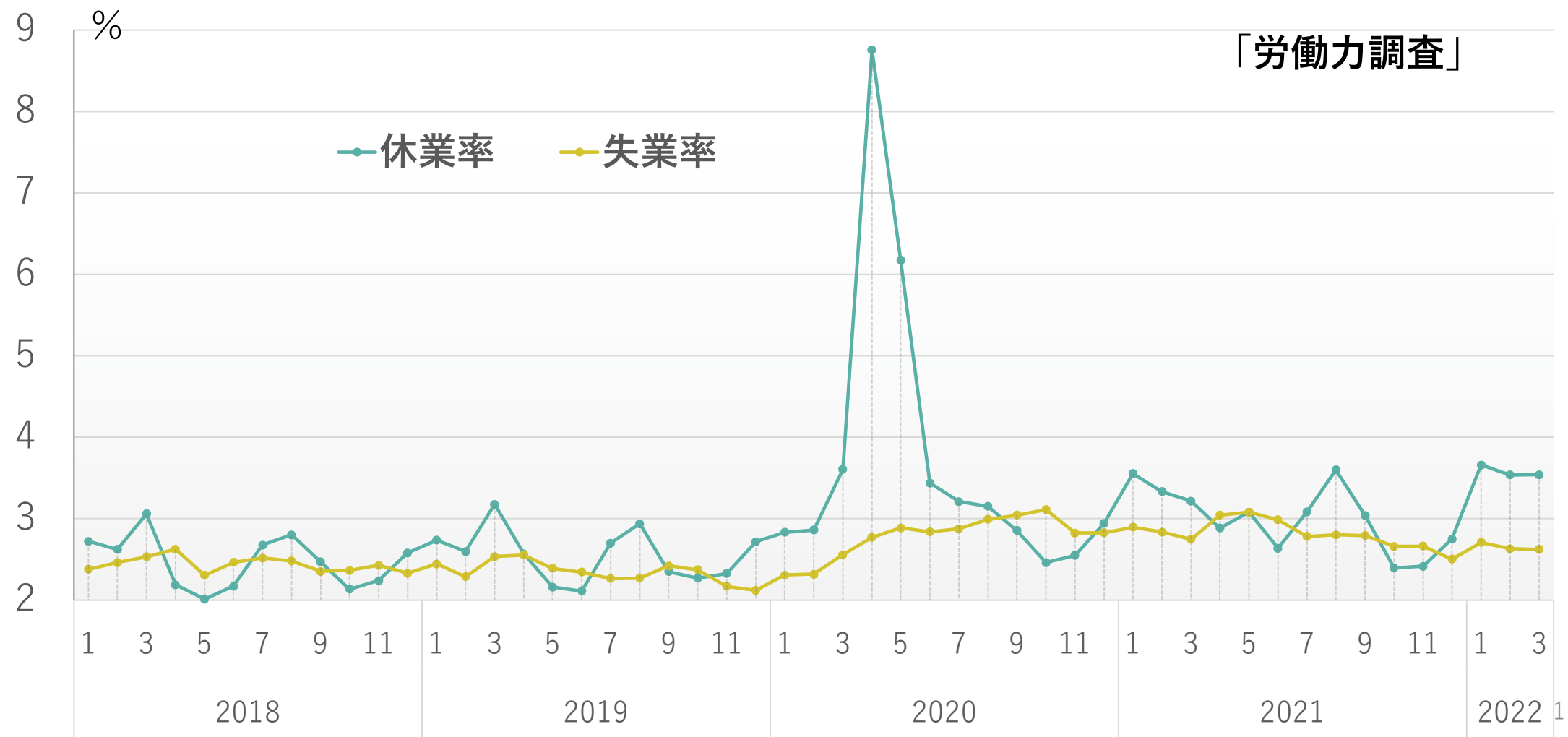
新型コロナパンデミック と 日本の家計行動

ESRI経済政策フォーラム

2022年7月1日 14：00～15：30

照山 博司 （京都大学）

失業率・休業率の推移：2018-2022



休業による労働調整

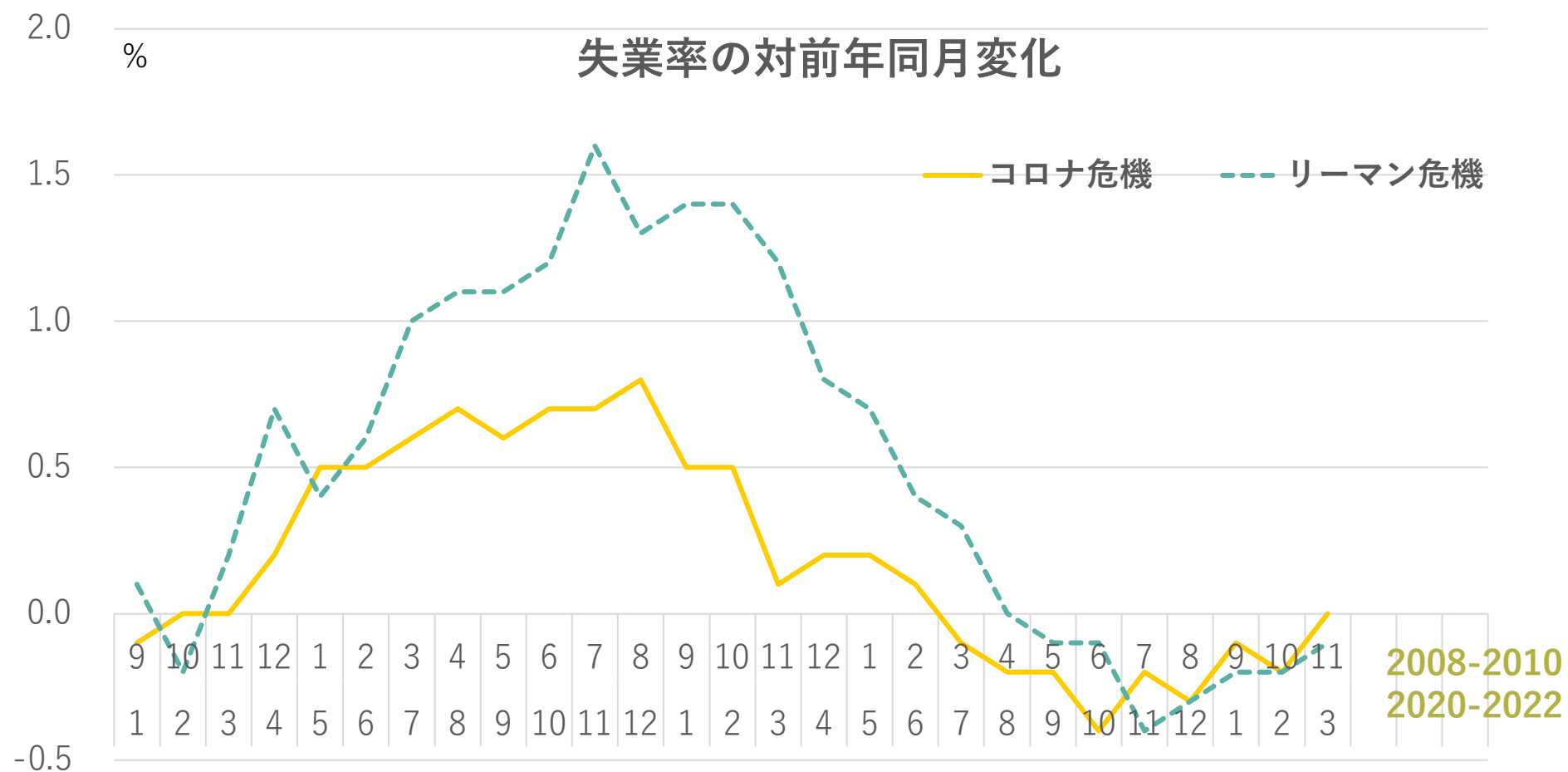
■パンデミック初期の短期間に、一時休業が集中

- パンデミックショックの継続期間が予測困難
 - 労働時間より調整幅が大きい
 - 解雇と再雇用ほど費用がかからない
- 外出制限（政策的・自粛）
 - 労働調整以外に人流制限の目的も持った
- 雇用調整助成金特例措置

■雇用調整助成金の雇用維持効果

- （政策効果の分析）雇用維持に関しては概して肯定的な結果が多い
 - 雇調金を受給した企業で、数か月先の人員削減が抑制
 - パンデミックで急激に業績悪化した企業が申請する傾向
 - パンデミックによる雇用や賃金の調整を緩和
 - 緊急事態宣言下の休業措置は、その後の失業・非労働力化を防いだ

失業率変化 (2008/9-2010/11) (2020/1-2022/3)



パンデミックと経済格差（雇用と賃金の格差）

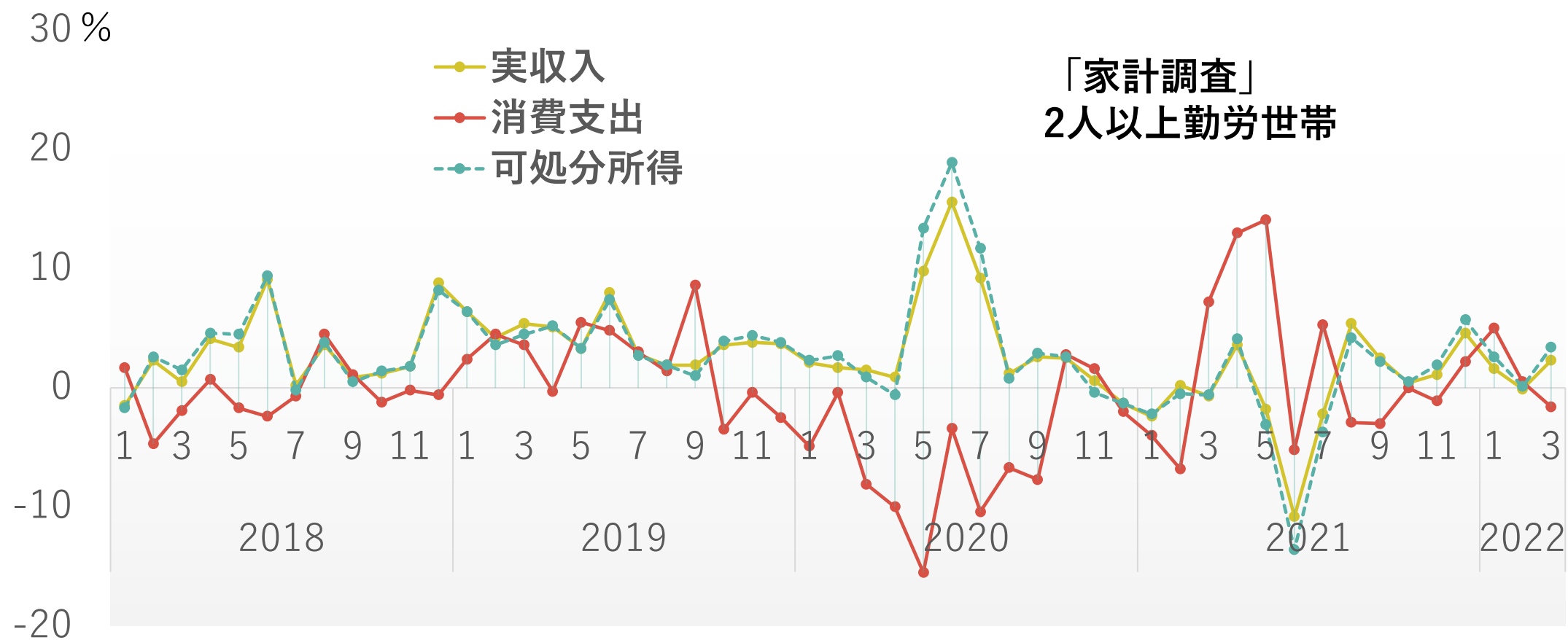
■ 「新型コロナショック」

- 雇用と賃金に関する不均一なショック
 - 業種・職種間格差
 - パンデミック特有の格差
 - 対人業務・リモート困難な職種に負のショックが集中
 - 対人サービス・人の移動を伴う業種負のショックが集中
 - 性別・雇用形態・年齢階層間格差
 - 従来からの格差
 - 日本の雇用慣行や制度に基づく構造要因
 - 正規・非正規（パートや派遣）、長期雇用慣行・年功賃金

■ 2つの格差（“コロナショックの格差”と“従来からの格差”）の重複

- 対人サービス（飲食・宿泊等）の多い職種・業種に非正規雇用が多い
- 非正規雇用には、女性、若年層が多い

消費と収入・所得の推移（前年同月比）



感染危惧と消費行動

■消費と外出自粛

- 外出自粛の契機となる情報
 - 新規感染者数増や緊急事態宣言等
- 感染に対する危惧・警戒から人との接触を回避しようとする行動
- 外出を伴う消費機会の減少

■消費の世代間格差

- 60代以上：飲食関連消費や小売店訪問回数が新規感染者数と逆に連動
- 重症化リスクの高い高齢層で、感染への危惧がより強い

■外出抑制には、政策的「介入」（緊急事態宣言等）と

「情報」（感染者数等）の2つの効果

- 「介入」の効果 < 「情報」の効果
- 相対的には、若年層は「介入」、高齢層は「情報」の効果が大きい

現金給付政策と消費

■「特別定額給付金」政策

■2020年：安倍内閣によって実施

■所得補助＋消費需要喚起

■「消費平準化」

■一時的所得は貯蓄に回るため、消費刺激効果は限定的

■実際は、**定額給付金により個人の消費が増加した**と考えられる

■**流動性制約**が大きいと考えられる個人で消費増が大きかった

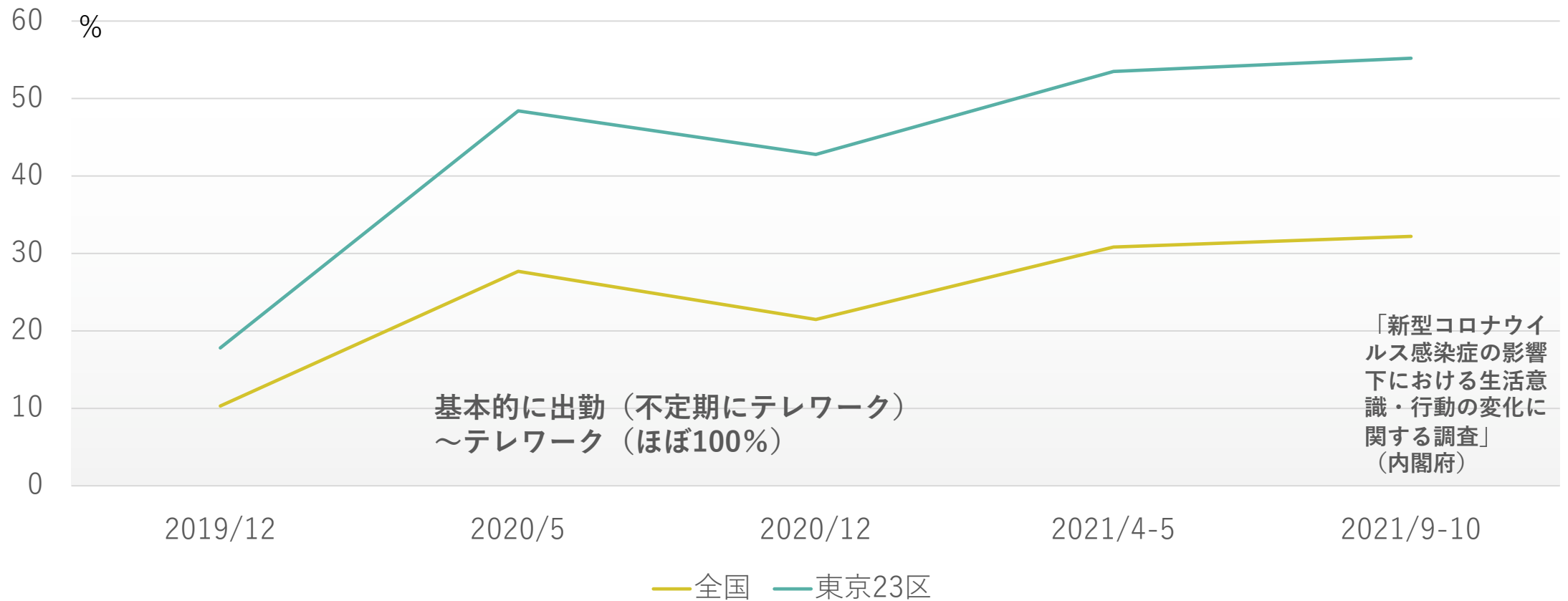
■銀行の口座入出金データ、家計簿アプリデータ、「家計調査」都市別データ

■定額給付金の消費刺激効果は、**主に流動性制約にある世帯**で発生する

■一律ではなく、流動性制約が厳しい世帯へ**集中した給付政策**が有効

■所得が低く借入制約がある**若年層**が多い

テレワーク実施率



テレワーク（在宅勤務）と家庭

■パンデミックにより普及したテレワークに誰が従事したのか

- 高学歴・高収入等、比較的恵まれた条件の労働者がテレワークを実施する傾向が強い → 働き方の格差拡大
- 性別や子どもの存在とテレワークの関係については様々な研究結果
 - 概して、子どものいる女性のテレワーク実施確率が高い

■テレワークの普及の家庭生活への影響

- 男性の家事・育児参加にポジティブな効果
 - 在宅勤務は、父親の家事時間、家族と過ごす時間を増加させる
- ウェルビーイングやメンタルヘルスに概ね良い影響
 - 効果は労働時間にも依存
 - 18歳未満の子どもがいる場合、男性では正の効果、女性には有意な効果なし
- テレワークの促進が、男性の家庭へのコミットメントを強め、ワークライフバランスを改善

家事・育児負担、ウェルビーイング

■子どものいる女性は雇用に大きな影響を受けた

- 有配偶女性の就業への影響は子供の有無で大きく異なるのに対し、男性では変わらない
→ 男女就業格差
- 多岐にわたる影響
 - 一斉休校により、子どもの体重が増加
 - 母親が子どもに関して悩みやすい
 - 家庭内での介護負担が増え、それが女性に担われた可能性

■心理面への影響は性別、学歴、年齢などによる異質性があった

- 小学生を持つ母親に負の効果
→ 一斉休校により性別間メンタルヘルス格差が拡大
- パンデミック初期においてはウェルビーイングは女性の方が大きく低下、その後全体的に改善するとともに男女格差は縮小傾向
- 高齢層も若年層も孤独感が上昇した；上昇幅は高齢層で大きい